

令和八年度 日本航空高等学校

第二回 模擬試験問題(国語)

受 験 番 号	氏 名

次の問いに答えなさい。

A 次の1～5までの傍線のついた漢字のよみをひらがなで記しなさい。

- 1 桜の樹皮で染色する。
- 2 雑草が繁茂する。
- 3 会議を円滑に進める。
- 4 色とりどりの光を放つ。
- 5 夜空の星の瞬きを眺める。

B 次の1～5までの傍線のついたカタカナを漢字で記しなさい。

- 1 二人の性格はタイショウ的だ。
- 2 質問にソクトウする。
- 3 別れ際にアクシユをした。
- 4 新しいココロみをする。
- 5 伝統工芸のニナイ手を探す。

C 次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 「メロスは激怒した。…」で冒頭が始まる作品の作者名として正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 太宰治 イ 夏目漱石 ウ 川端康成 エ 芥川龍之介
- 2 「清流」と同じ構成の熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 発熱 イ 救助 ウ 骨折 エ 少量
- 3 次の文はいくつの文節で構成されているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。
「私と同じクラブ活動に所属する後輩は会長に選ばれるのにふさわしい人物だ」
ア 七 イ 八 ウ 九 エ 十
- 4 「やぶから棒」と同じ意味を持つことわざを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 棚からぼたもち
イ 寝耳に水
ウ 急がば回れ
エ 河童の川流れ
- 5 「父の書いた手紙を読む」の「の」と同じ用法を次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 春のような陽気だ
イ この本は学校のだ
ウ 私の好きな絵だ
エ きれいな桜の花だ

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ルールを大切に考えるという発想は、規則を増やしたり、自由の幅を少なくしたりする方向にどうしても考えられてしまうのですが、私が言いたいことは①そういうことではありません。むしろ全く逆なのです。ルールというものは、できるだけ多くの人にできるだけ多くの自由を保障するために必要なものなのです。

なるべく多くの人が、最大限の自由を得られる目的で設定されるのがルールです。ルールというのは、「これさえ守ればあとは自由」というように、「自由」とワンセットになっているのです。逆にいえば、

Aは**B**がないところでは成立しません。

「何でも好き勝手にやつていい」ということが自由だとしたら、無茶苦茶なことになってしまいます。人間というものは総じて自分の利益を最優先する傾向があるわけですが、「自分の利益のことしか考えない力の強い人」が一人いたら、複数の人間からなる社会における自由はもうアウトになります。この場合、誰か一人だけが自由で、残りの人はみんな不自由ということになりかねません。ルールの**C**があるからこそ、自由というものが成り立つのです。

*ホッブスの「社会契約論」を思い起こしてみてください。

人間が生きているということの本質は自由であり、欲望の実現です。ルールとは、それぞれの人々が欲望を実現するために最低必要な*ツールなのです。

欲望は、百パーセントは実現できないかもしれない。しかし、たとえば「一割、二割、自分の自由を我慢して、対等な立場からルールを守ることではか、社会のメンバー全員自由を実現することはできないのです。そうすることによって、②残りのほとんどの欲望は保障されます。でも、ルールというものの本質がそういうものだということは、なかなか了解されにくいのです。たとえば、交通規則を思い出してください。どんなに急いでいても前の信号が赤ならば必ず止まる。一見すると「早く目的地に着きたい」という欲望は制限されていますが、そうした欲望を多少抑制することによって、誰もが安全に確実に、事故にあうよりはずっと早く目的地に③たどり着くことができるのです。

(菅野仁「友だち幻想」)

*ホッブスの「社会契約論」社会・国家は、自由で平等で諸個人の契約によって成立したとする説

*ツール道具

問一 傍線部①を指す内容を答えなさい。

問二 空欄A・Bに入る言葉をそれぞれ本文中より抜き出して、答えなさい。

問三 空欄Cに入る言葉として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 共有性 イ 柔軟性 ウ 独自性 エ 可能性

問四 傍線部②とあるが、そのためにはどうすることが必要か。本文中の言葉を使用して答えなさい。

問五 傍線部③の主語を一文節で抜き出さない。

問六 この文章の内容と一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア すべての人が、それぞれの持つ最低限の欲望を実現するためにルールは必要である
 イ 多くの人が、それぞれの持つすべての欲望を実現するためにルールは必要である
 ウ 多くの人が、それぞれの持つなるべく多くの欲望を実現するためにルールは必要である
 エ すべての人が、それぞれの持つすべての欲望を実現するためにルールは必要である

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼく(南山)の描いた非常に個性の強い絵が美術教師の小池先生の目に留まり、美術展に出品された。発表があった翌日、ぼくは美術室に足を向けた。

「お、結果が気になって来たのか？」

①「いえ別に……通りかかっただけです」

「一年の教室は隣の校舎だろう。すごい通りかかり方だな」

ぼくの言いわけを一人で面白がつてから、小池先生はいつも笑っているような顔を、ほんの少しだけ引きしめて言った。

「だめだった。俺も残念だよ。ま、選考委員は田舎(いなか)画家ばかりだから、しかたない。その気にさせてしまつて悪いが、あきらめてくれ」

「はあ」別に構わない。期待はしていなかったし。というの嘘(うそ)。美術室のドアを開ける時までぼくは、**A**という言葉を心のどこかで期待していたのだ。

「でもな、ダメだったからつてダメだなんて考えなくていいぞ」

黙つてうなづくことしかできなかった。意味がよくわからなかったからだ。

「俺はお前の絵が好きだ。なぜなら、俺には描けないから」

小池先生は眼鏡の中の小さな目を、くるくる動かして言った。

「ま、誰のどんな絵でも、俺には描けないんだけどね。絵はその人それぞれのものだから。ただし、小手先がうまいだけなら、ほとんど同じものをもつとうまく描ける。でも、お前みたいな色遣いや**②筆運び**はまねできない。いい絵だよ、これは。普通の人間にはできないな」

③小池先生の言葉には嘘がない気がした。「いい絵だよ、これは」と言いながら、ひげの伸びたあごで、美術室の隅を指した。そこにはこの学校の出品作品が山積みになっていて、ぼくの絵だけが立てかけてあった。

小池先生の言葉はうれしかった。でも、同時に不安になった。

「ねえ、先生、ぼくは普通じゃないんでしょうか？」なぜそんなことを聞いたのか、自分でもわからない。

*トルソーの上に載つかった小池先生の首が、ギリシャ神話に出てくる小太りの神様みだったからだろうか。

小池先生がトルソーの上で首をかしげた。**④ぼくの言葉の意味を考えているようだった。**首をもとに戻してから、ぼくの薄茶色の目を覗(のぞ)きのぞきこんできた。「いいか南山、普通の人間なんて、どこにもいないんだよ。みんな少しずつ違う。確かに地球の上から見下ろせば、お前の存在は何十億分の一でしかない。俺もそう、ちっぽけなもんだ。世間という『地球より重い』なんてたいそうなものじゃない。だけど、考えてみるよ。何十億分の一にしろ、お前はこの世にお前しかないんじゃないぞ」

その答えをぼくはとても気に入った。今でも胸の中にしまつてあって、ときどき取り出して、**⑤トロフィ**

ーみたいに眺めている。

(荻原浩「四度目の氷河期」)

*トルソー頭や手足のない胴体だけの彫像

問一 ぼくは、傍線部①と言っているが、本当は結果が気になっていた発言だとわかる表現を本文中から七字で抜き出しなさい。

問二 空欄Aに入る言葉として、ぼくはどんな言葉を期待していたか。答えなさい。

問三 傍線部②の品詞名を漢字で答えなさい。

問四 ぼくが傍線部③と感じた理由を答えなさい。

問五 傍線部④とあるが、ぼくの言葉は小池先生にどのように聞こえたと考えられるか。答えなさい。

問六 傍線部⑤とあるが、ぼくは小池先生の言葉に何を感じているのか。適当なものを次から一つ選び、

記号で答えなさい。

ア 自分は特別に選ばれた存在だという自負

イ 自分では気づかないうちに成長していたのだという発見

ウ 自分にしかできない仕事があるという責任感

エ 自分はかけがえない存在であるという誇り

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一人の親あり。遠き所へ行きて、病をうけて、二人の子のあるがもとへ告げやりたるに、一人の子は、①ぬたる所、近し。一人の子はぬたる所、遠し。

近き子は聞くままに行きけるが、夜ふかく、道おそろしくて、野中の塚穴のありけるに入りて、夜明けて行かんとア思ひて入りぬ。遠き子は、*さがりて行きけるが、それもあまりにイおそろしかりければ、この塚穴に入りて、A夜明けて行かんと思ひて入りけるを、Bもと入りたる子は、鬼くらひに來たると思ひ、今入りたる子は、塚の中に鬼ありて②くらはんとするなりと思ひて、*かたみに、くはれじとて、取りくみ、引きくみて、C夜もすがら、*③からかひて、夜明けて見れば、わが兄弟に*みなしてげり。

*迷ひの衆生も、*かくのごとし。

(『宝者集』より)

*さがりて||遅れて

*かたみに||お互いに

*からかひて||争つて

*みなしてげり||わかったのだよ

*迷ひの衆生||いろいろな欲望に惑わされ、悩みを多く、迷っている世間の人々。一方、仏さまは欲望や怒りや愚かさ、心を揺り動かされない心境(悟り)に達していると言われる

*かくのごとし||このようなものである

問一 傍線部①③をすべてひらがなで、現代仮名遣いに直しなさい。

問二 傍線部ア・イの主語は、それぞれ何か。本文中の語で答えなさい。

問三 二重傍線部A・Cを現代語訳しなさい。

問四 二重傍線部Bは、誰のことか。本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問五 作者はこの話を通して、人々にどのようなことを伝えようとしているのか。最も適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 迷いや苦しみの多い世の中から、悟りを求めなさいということ

イ 私たちの人生は、はかなくむなしものと悟りなさいということ

ウ つまらないことで兄弟げんかをしてはいけないということ

エ この兄弟のように親孝行は心がけなければならないということ

五

「残りの中学校生活で取り組みたいことを具体的に挙げ、高校生活にどう生かしたいか」という題で次の注意にしたがつて文章を書きなさい。

1 原稿用紙の書き方の約束を守る。

2 題名・氏名は原稿用紙のますの中には書かないで、始めの行から文を書き出す。

3 字数は百五十字以上、二百字までとする。

4 できるだけ漢字を使って書くこと。

C	B	A	一
1	1	1	各二点×十五問 計三十点
ア	対照	じゅひ	
2	2	2	
エ	即答	はんも	
3	3	3	
ウ	握手	えんかつ	
4	4	4	
イ	試	はな	
5	5	5	
ウ	担	またた	

問二	問二のみ各一点 他各三点 計十七点		
問一	ルールを大切に考えるというのは、規則を増やしたり、自由の幅を少なくしたりすること（同意可）		
問二	A	自由	B
問二		ルール	問三
問二			ア
問四	一割、二割、自分の自由を我慢して、対等な立場からルールを守ること（同意可）		
問五	誰もが	問六	ウ

三	各三点×六問 計十八点										
問一	ぼ	く	の	言	い	わ	け	問二	入賞したよ（同意可）	問三	名詞
問四	美術室の隅に、この学校の出品作品が山積みになっていて、ぼくの絵だけが立てかけてあったから（同意可）										
問五	普通じゃないというのは、だめなのか（同意可）								問六	エ	

問四	問三	問二	問一	四
近	A	ア	①	問三のみ各三点 他各二点 計二十点
き	夜が明けてから行こう（同意可）	近き子	いたる	
子				
問五		イ	②	
ア		遠き子	くらわん	
	C	からかいて		
	一晚中（同意可）			

[illegible]